

対中「多角的同盟関係で」

国際政治について語る藪中さん（奈良市で）



元外務次官藪中さん講演

華師寺月例

まほろば塾

日本人の心と豊かな日本文化を広く伝える「月例奈良まほろば塾」が21日、奈良市の薬師寺で開かれた。元外務次官の藪中三十二・立命館大客員教授（73）が「コロナ禍の国際政治の行方」の題で講演し、抽選で選ばれた約50人が聴き入った。

藪中さんは、コロナ禍でインターネット空間ではグローバル化が進展したと指摘し、「極端な意見、真偽不明の情報が増える懸念

もあるが、相互理解を深めるチャンスだ」と強調した。また、経済や軍事で伸長

する中国と向き合うためには、「多角的な同盟関係が重要になる。日本に対する世界の信頼は日本人が思う以上に厚く、平和外交を堂々と展開すべきだ」と述べた。奈良市の易学教室主宰、中西政山さん（78）は「外交交渉では自国の立場や意見を明確に伝え、堂々と議論し、でもうそをつかない」という話に感銘させられた」と話した。

この日の様子は、3月10日以降、薬師寺まほろば塾ホームページでオンライン配信する（有料、薬師寺まほろば塾会員は無料）。